

## 感情労働のストレス研究に関する ICT 利用による研究の動向

日大生産工(院) ○藤田 直之 日大生産工 水上 祐治

## 1. 研究目的

感情労働を伴う経営では管理者による従業員のストレスチェック業務が義務化されている<sup>1)</sup>。ストレスチェックや付随する業務および対策に関してのICT利用推進についての状況把握を推進するために、本研究では文系と理系による異分野融合に着目する。関連論文を文系理系に分類し、ICT関連用語の含有率との相関を時系列に示し、結果から動向を考察する。

## 2. 関連研究レビュー

学術文献サービスSemantic Scholar (以下SS) を用いた調査で2023年10月10日現在、論文を文系、理系、ICT関連に分類する研究の存在を本研究の範囲で確認していない。

## 3. 研究課題と研究デザイン

私たちの研究テーマの感情労働におけるビッグファイブを用いるストレス研究の分野では、ソフトウェア開発等ICTに関する課題実装は主に理系、社会へ適用する社会実装は主に文系が担っていると考えている。将来的に異分野融合し研究発展が進むと考える。現状、融合の基となる理系の研究が多いか文系の研究が多いか不明である。対象となる論文を時系列に文系、理系、ICT関連用語<sup>2)</sup>の含有の相関を調査し、対象論文を文系理系に分類し、ICT関連用語の含有率を時系列に該当分野の他論文と比較し、研究の動向を考察する。

## 4. 研究方法と研究実施

論文から文系と理系を分類するために、以下の仮説を検証した。

## H0:

文系は、理系と比べ抽象的表現を多用する論文を書く傾向がある。

最初にSSを用い、emotional labor big five stressのキーワードと1956年～2023年の期間を指定し検索した英文論文463件のs2FieldsOfStudyから専攻として5つ選択した。

表1 論文要約抽出条件

専攻名	カテゴリ	キーワード	公開年
社会学	Sociology	study	2022
経済学	Economics	study	2022
心理学	Psychology	study	2022
医学	Medicine	study	2022
工学	Engineering	study	2022

表2 統計情報

専攻名	中央値	標準偏差	P値
社会学	0.153	0.041	0.000
経済学	0.147	0.040	0.000
心理学	0.135	0.041	0.000
医学	0.126	0.045	0.000
工学	0.125	0.034	0.000

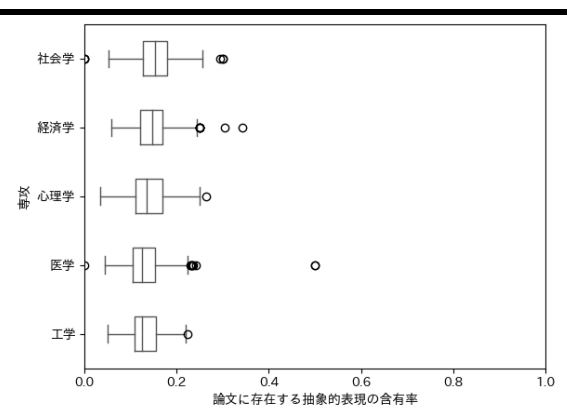


Fig.1 抽象的表現の含有率

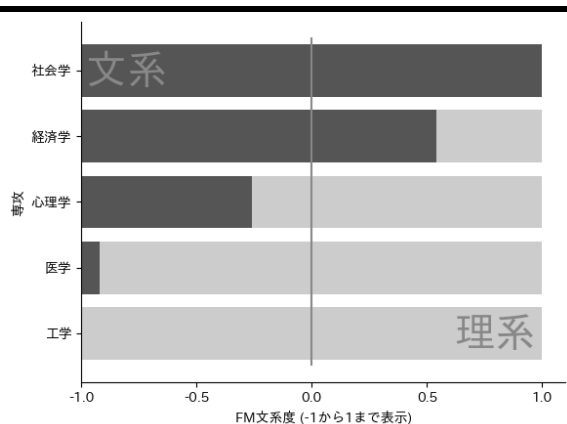


Fig.2 FM文系度

Trends in study describing the use of ICT in emotional labor stress research

Naoyuki FUJITA and Yuji MIZUKAMI

